

## 第2章

---

# 市の状況



## 第1節 統計にみる現状

### (1) 人口

#### ■年齢3区分の人口

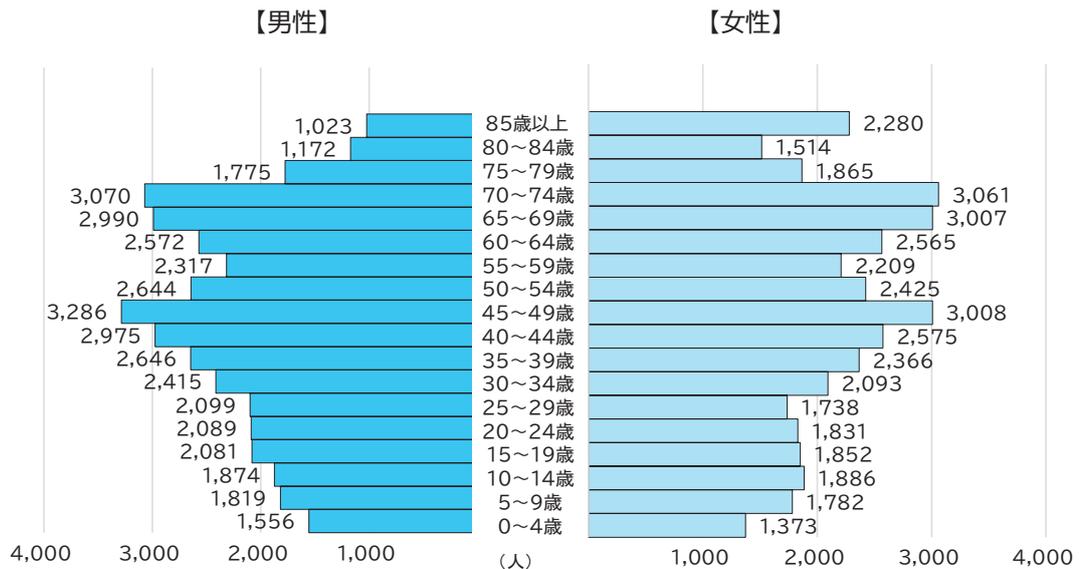
総人口は、令和3年で79,833人となっており、近年は減少傾向にあります。年齢3区分別人口をみると、生産年齢人口と年少人口の減少が続く一方、老年人口は増加が続いています。



住民基本台帳(各年4月1日現在)

#### ■男女別人口

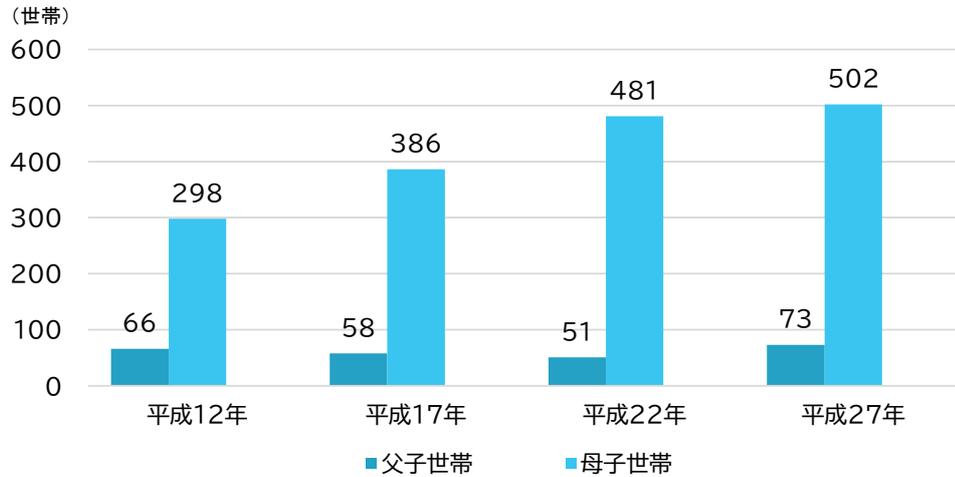
人口を男女別に見ると、15~19歳以上、60~64歳以下の年齢層ではいずれも男性が女性よりも多い一方、85歳以上では女性が男性の2倍以上となっています。



住民基本台帳(令和3年4月1日現在)

## (2) ひとり親世帯数

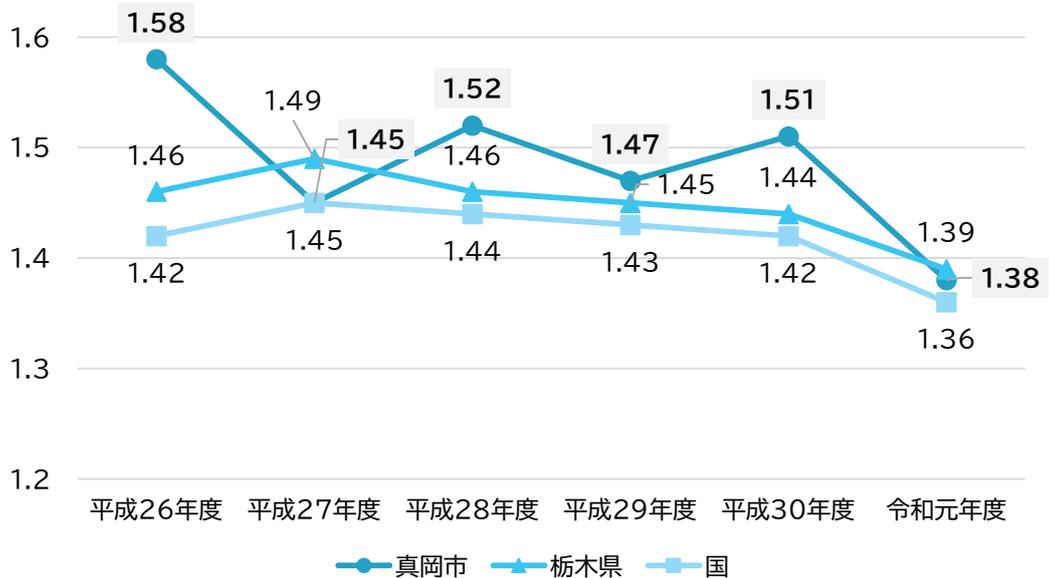
父子世帯、母子世帯ともに増加していますが、特に母子世帯の増加傾向が強くなっています。



国勢調査(平成27年)

## (3) 合計特殊出生率

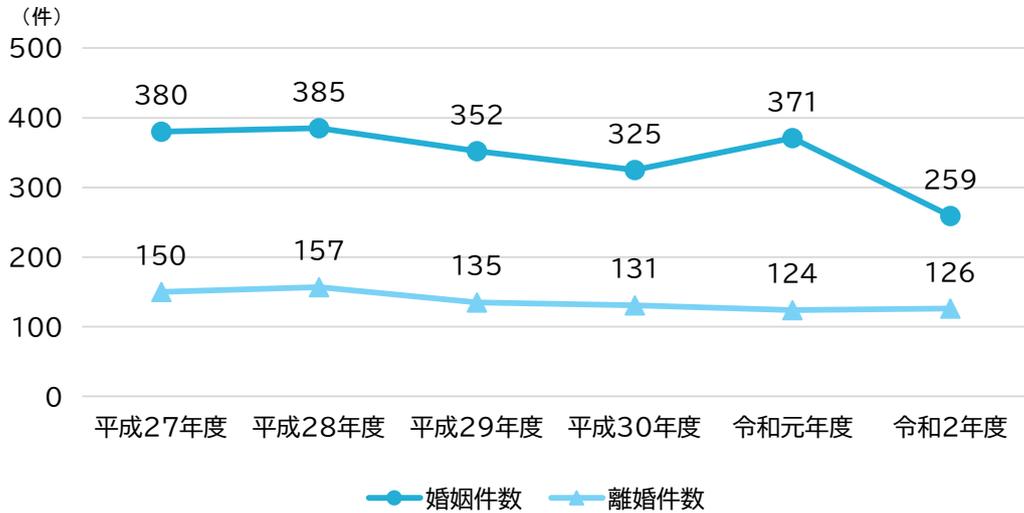
合計特殊出生率(\*)は、栃木県や国よりもやや高い水準で推移していましたが、令和元年度は栃木県や国と同水準となっています。



令和2年版真岡市統計書(栃木県保健統計年報各年)

#### (4) 婚姻・離婚件数

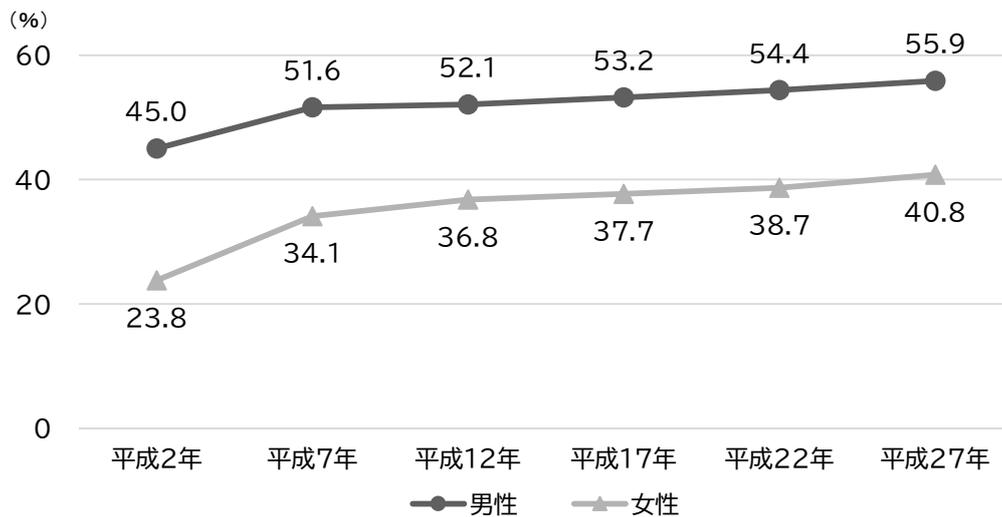
「令和婚」の影響か、平成30年度に比べて令和元年度の婚姻数は多くなっていますが、婚姻数、離婚数ともにおおむね減少傾向にあります。



令和2年版真岡市統計書

#### (5) 未婚率

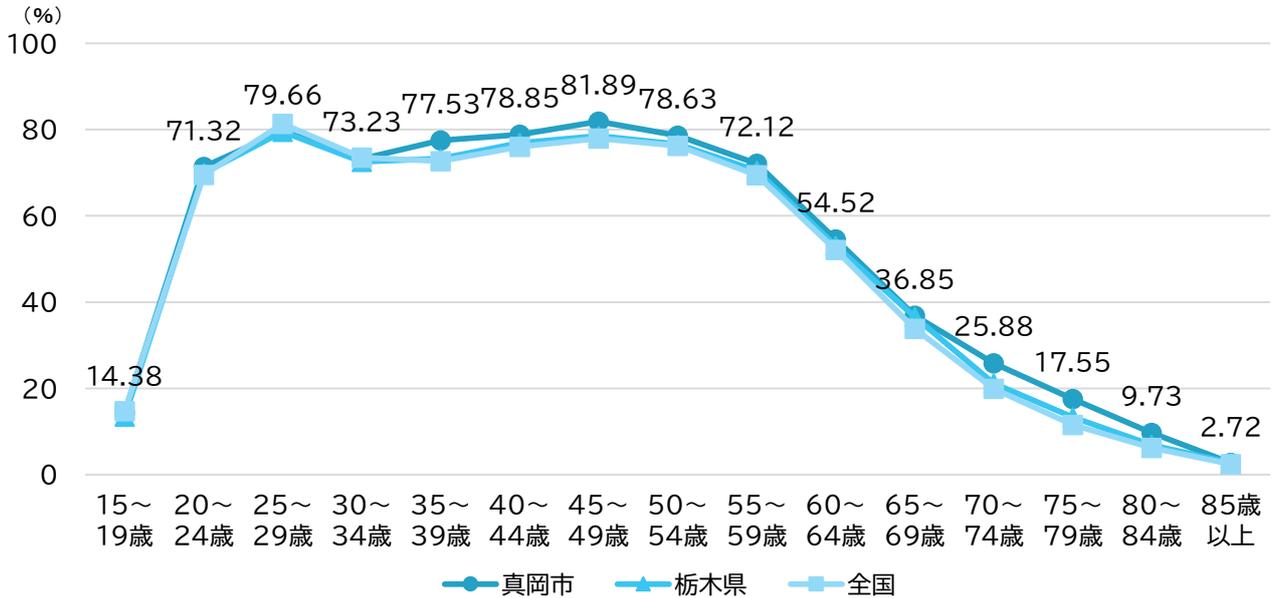
20～39歳の未婚率は、男性、女性ともに未婚率が上昇しており、平成27年時点を20年前と比べると男性は4.3ポイント、女性は6.7ポイント増えています。



国勢調査(平成27年)

## (6) 労働力人口

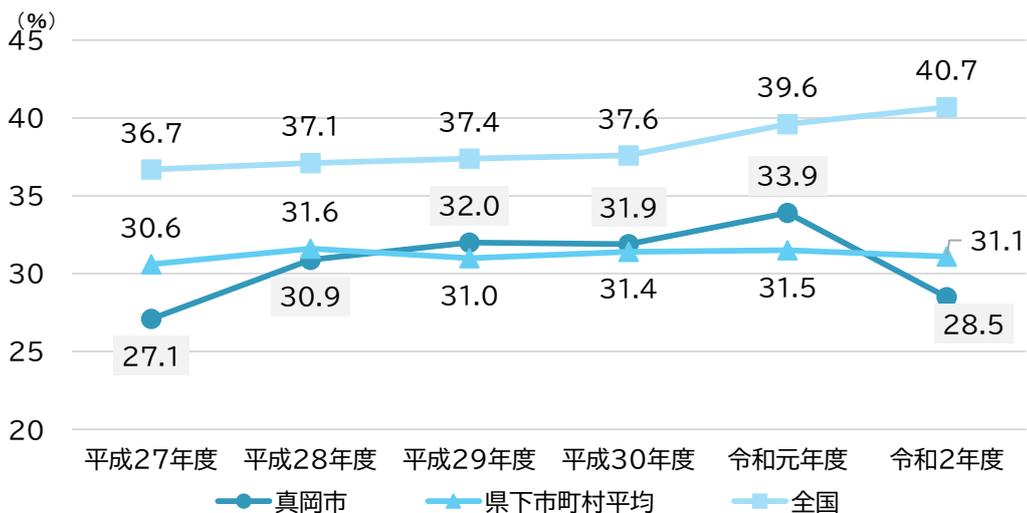
市の5歳階級別女性の労働力率は、35歳から84歳までの年代で国や県よりも高く、特に国のM字カーブ(\*)の谷である35～39歳や70歳代で、真岡市は高いのが特徴です。



国勢調査(平成27年)

## (7) 審議会等委員への女性の登用比率

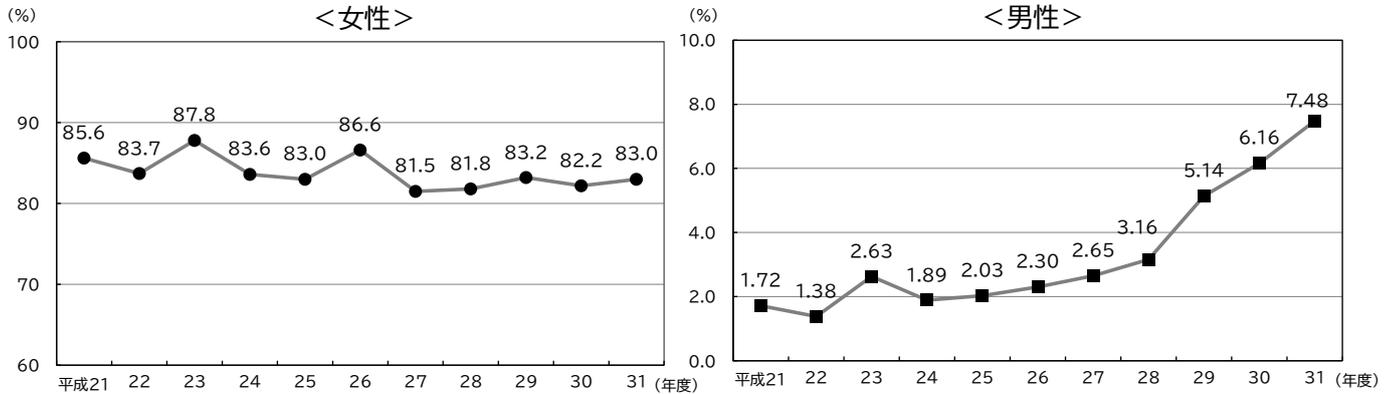
目標を設定している審議会等委員への女性の登用比率は、平成28年度に30%を超えておりましたが、令和2年度は28.5%となり、県下市町村平均より下回っています。



内閣府 男女共同参画局(地方公共団体における男女共同参画社会(\*)の形成又は女性に関する施策の推進状況)  
(各年度4月1日現在)、市の数値は、各年度3月31日現在

## 参考① 国の育児休業取得率

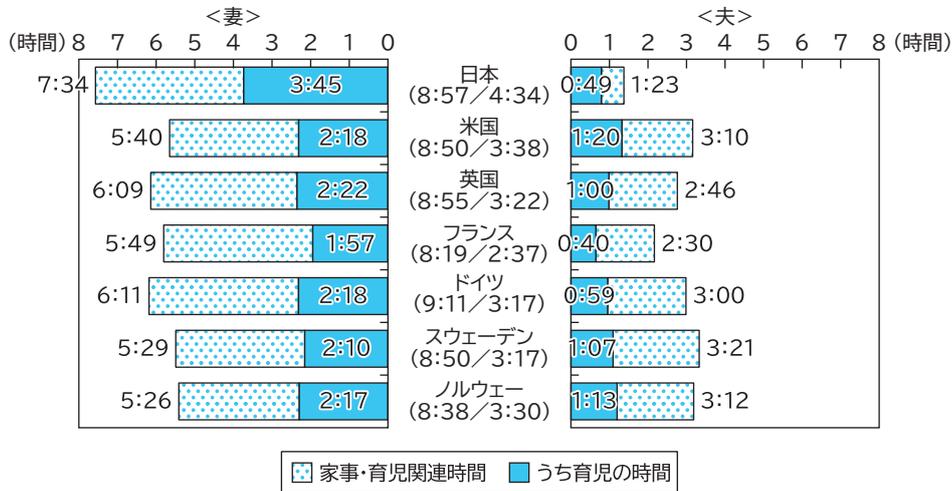
国の育児休業取得率をみると、女性は80%を超えているのに対し、男性をみると、近年は増加傾向にあります。それでも7%台となっています。



厚生労働省「平成27年度～30年度雇用均等基本調査(速報)」

## 参考② 6歳未満児のいる夫婦の家事・育児関連時間

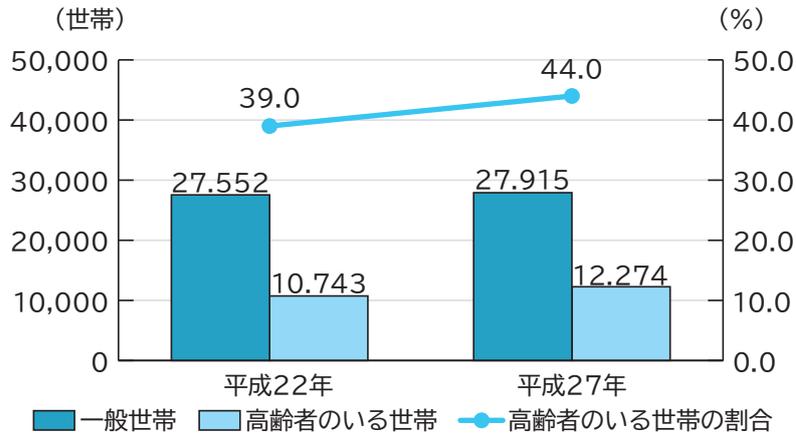
日本の6歳未満児のいる夫婦の家事・育児関連時間をみると、他国より<妻>の家事・育児関連時間が長く、<夫>の家事・育児関連時間が短い傾向にあります。



- (備考) 1. 総務省「社会生活基本調査」(平成28年)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. “American Time Use Survey” (2016) 及び Eurostat “How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men” (2004) より作成。
2. 日本の値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫と妻の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間(週全体平均)。
3. 国名の下に記載している時間は、左側が「家事・育児関連時間」の夫と妻の時間を合わせた時間。右側が「うち育児の時間」の夫と妻の時間を合わせた時間。

### 参考③ 高齢者世帯数

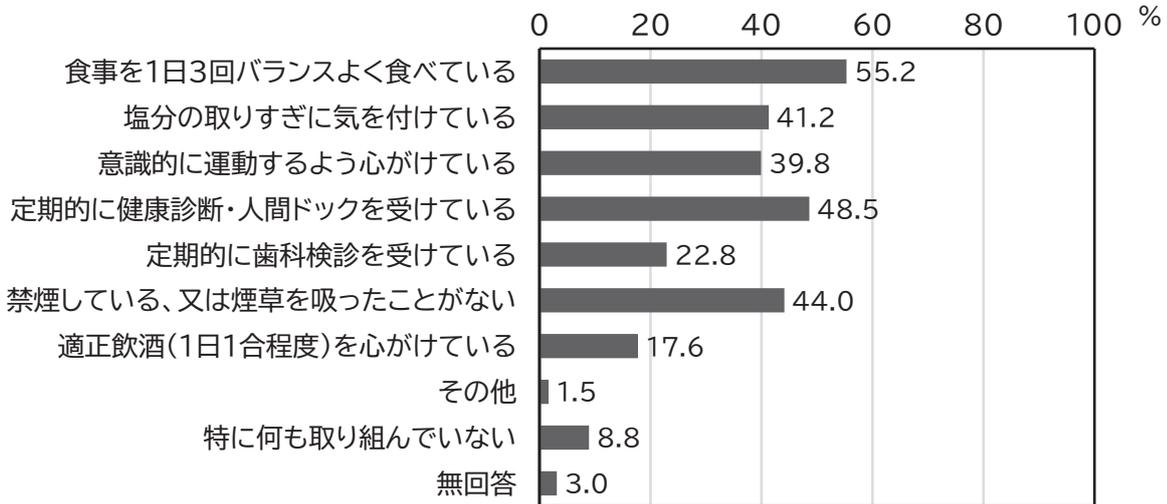
高齢者のいる世帯の割合は増加傾向にあります。



第8期真岡市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

### 参考④ 健康づくりのために取り組んでいること

令和2年度真岡市市民意向調査によれば、健康づくりのために取り組んでいることとして、「食事を1日3回バランスよく食べている」が55.2%で最も高く、「定期的に健康診断・人間ドックを受けている」が48.5%で続きます。



令和2年度真岡市市民意向調査

## 参考⑤ ジェンダー・ギャップ指数 2021

世界経済フォーラムが、各国における男女の格差を測るジェンダー・ギャップ指数(\*) を発表し、2021年の日本の総合スコアは0.656、順位は156か国中120位(前回は153か国中121位)でした。前回と比べて、スコア、順位ともに、ほぼ横ばいとなっており、先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となりました。

<ジェンダー・ギャップ指数とは>

「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示しています。

ジェンダーギャップ指数 (2021) 上位国及び主な国の順位				
順位	国名	値	前年値	前年からの 順位変動
1	アイスランド	0.892	0.877	-
2	フィンランド	0.861	0.832	1
3	ノルウェー	0.849	0.842	-1
4	ニュージーランド	0.840	0.799	2
5	スウェーデン	0.823	0.820	-1
11	ドイツ	0.796	0.787	-1
16	フランス	0.784	0.781	-1
23	英国	0.775	0.767	-2
24	カナダ	0.772	0.772	-5
30	米国	0.763	0.724	23
63	イタリア	0.721	0.707	13
79	タイ	0.710	0.708	-4
81	ロシア	0.708	0.706	-
87	ベトナム	0.701	0.700	-
101	インドネシア	0.688	0.700	-16
102	韓国	0.687	0.672	6
107	中国	0.682	0.676	-1
119	アンゴラ	0.657	0.660	-1
<b>120</b>	<b>日本</b>	<b>0.656</b>	<b>0.652</b>	<b>1</b>
121	シエラレオネ	0.655	0.668	-10

世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report 2021」

## 第2節 意識調査からみる現状

令和2年度に実施した真岡市男女共同参画社会(\*)に関する調査の主な結果は、以下のとおりです。

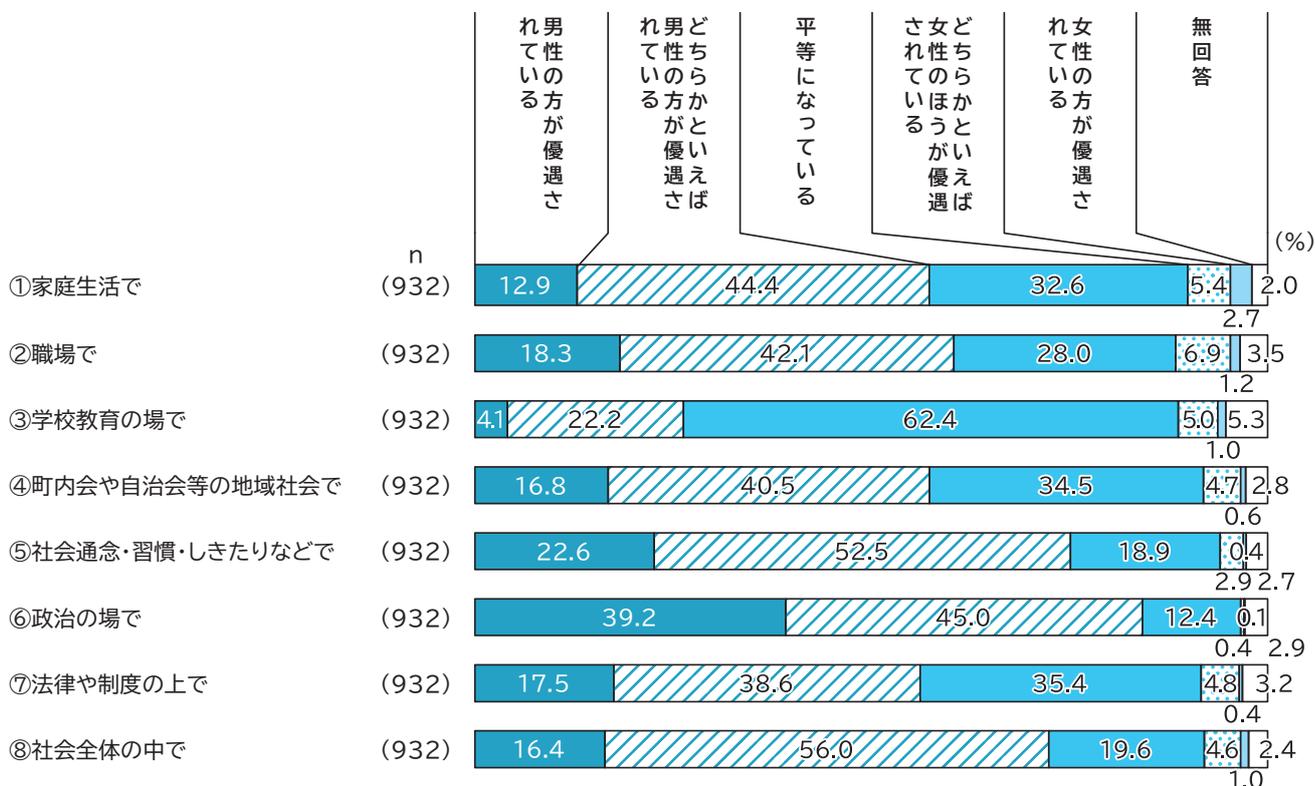
### (1)男女平等意識について

#### ①男女の地位の平等に対する考え

##### ■一般調査

男女の平等感について分野別でみると、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、“政治の場”が84.2%と最も高く、“社会通念・習慣・しきたり等”で75.1%、“社会全体”としては72.4%となっています。また、“学校教育の場”では「平等」が62.4%と、他の分野より高くなっています。

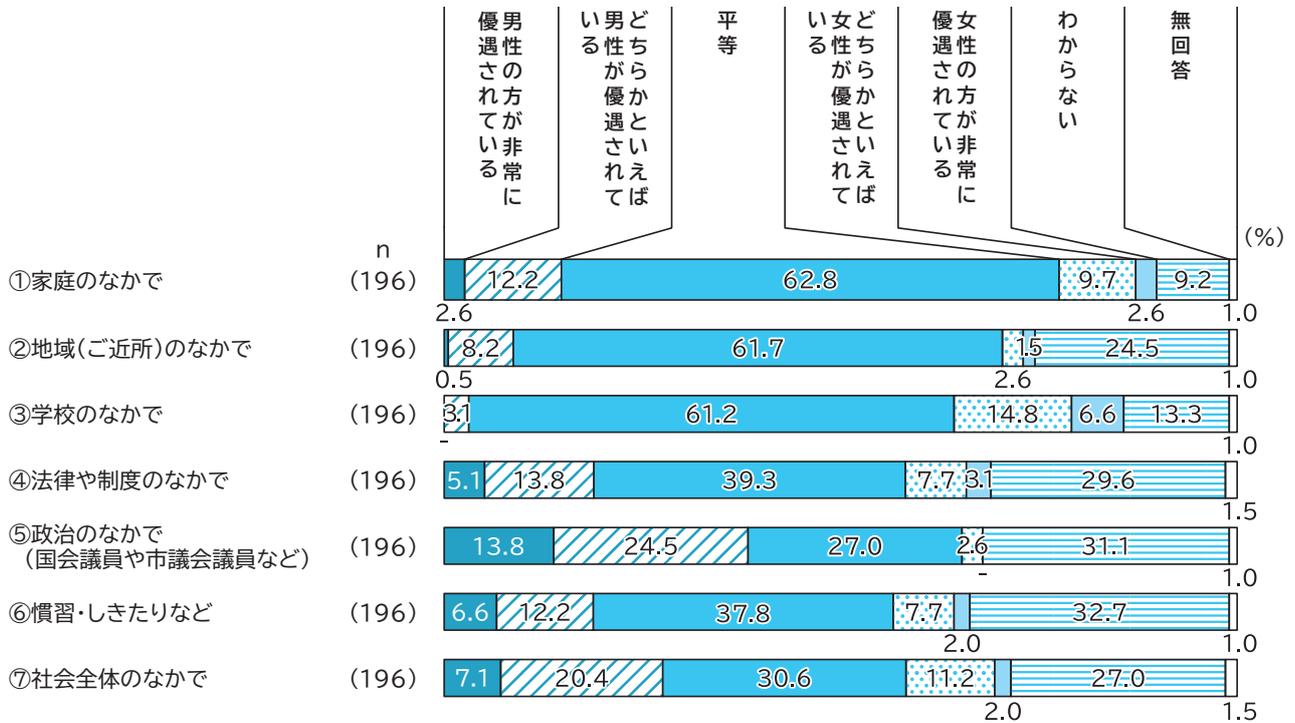
◇一般調査:男女の地位はどの程度平等になっていると思うか(単数回答)



## ■中学生調査

男女の平等感について分野別でみると、すべての分野で「平等」が最も多くなっています。一方、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は“政治のなかで(国会議員や市議会議員など)”、“社会全体のなかで”で比較的高くなっています。

◇中学生調査:男女の立場は平等になっていると思うか(単数回答)

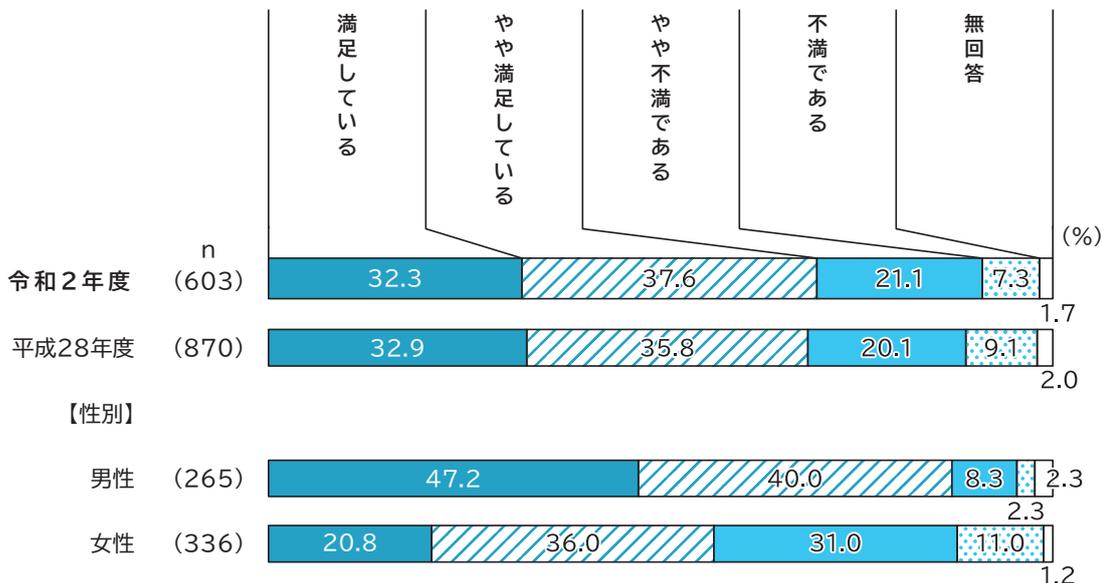


## ②夫婦間の役割分担の満足度

夫婦間の役割分担の満足度では、「やや満足している」が37.6%で最も多く、「満足している」(32.3%)を合わせた《満足》は69.9%となっています。

性別でみると、男性では《満足》が87.2%を超えています。一方、女性では《満足》は男性より低く、56.8%にとどまります。

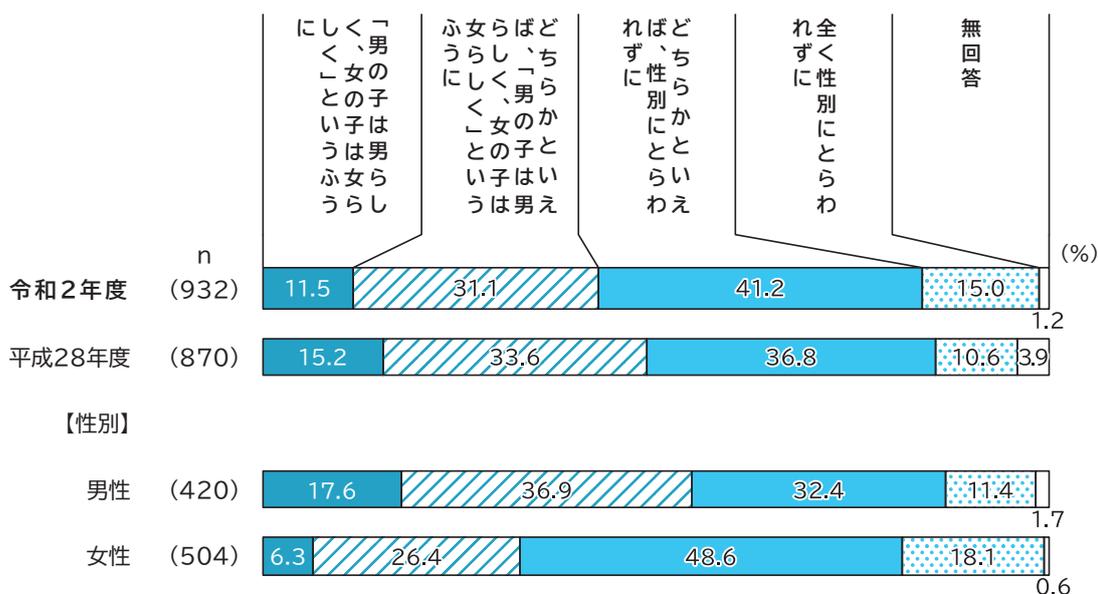
◇一般調査:夫婦の間の役割分担の現状について、どのように思っているか(単数回答)



### ③子どもの育て方に対する考え方

子どもの育て方に対する考え方は、「どちらかといえば、性別にとらわれずに」が41.2%と高くなっています。性別で見ると、<「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という意見は男性の方が女性より10ポイント以上高く、一方、<性別にとらわれずに>という意見は女性の方が高い傾向にあります。

◇一般調査:自分の子どもをどう育てたいと思うか(単数回答)

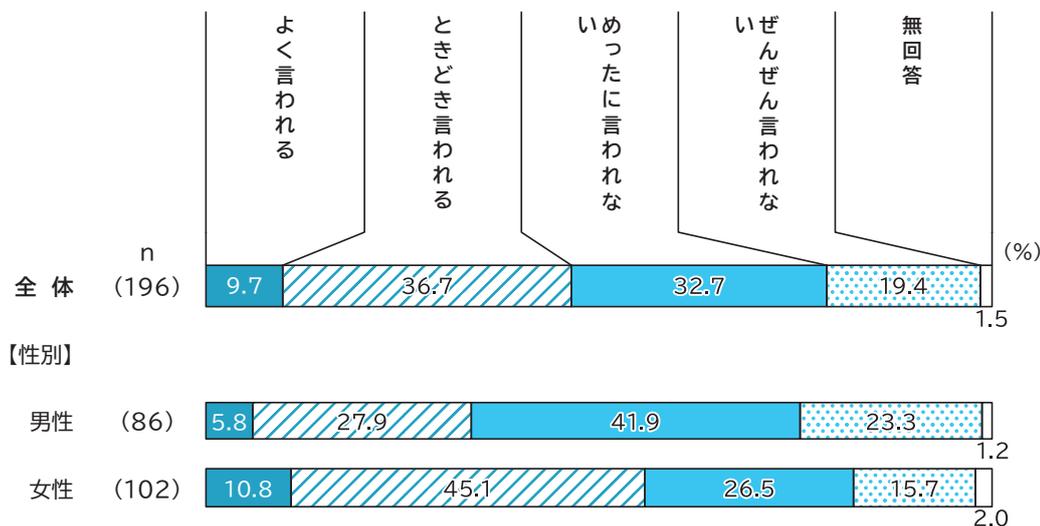


### ④「男だから」「女だから」と言われた経験

「男だから」「女だから」と言われた経験は、「よく言われる」(9.7%)と「ときどき言われる」(36.7%)を合わせた《言われる》は46.4%と半数近くとなっています。

性別で見ると、《言われる》は、女性(55.9%)の方が男性(33.7%)より22.2ポイント高くなっています。

◇中学生調査:「男だから」「女だから」と言われた経験はあるか(単数回答)

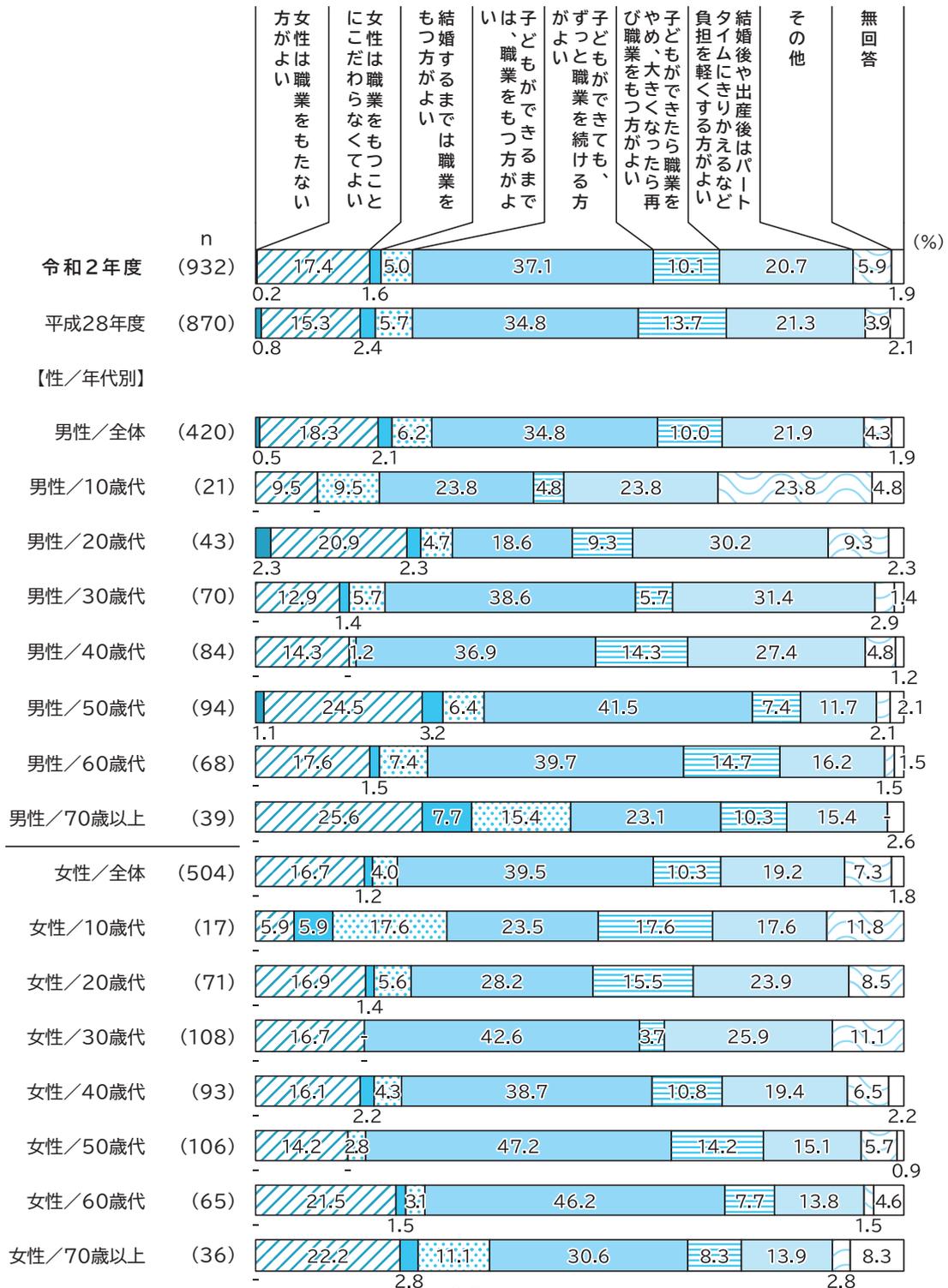


## (2)女性と仕事について

### ①女性の就労についての考え

女性が職業をもつことへの考えについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が37.1%と最も高くなっていますが、性別で見ると女性の方が高い傾向にあります。また、「結婚後や出産後はパートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」が20.7%、「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」が17.4%と続き、女性の就労は“家計の補助”的とみられる意見も一定数います。

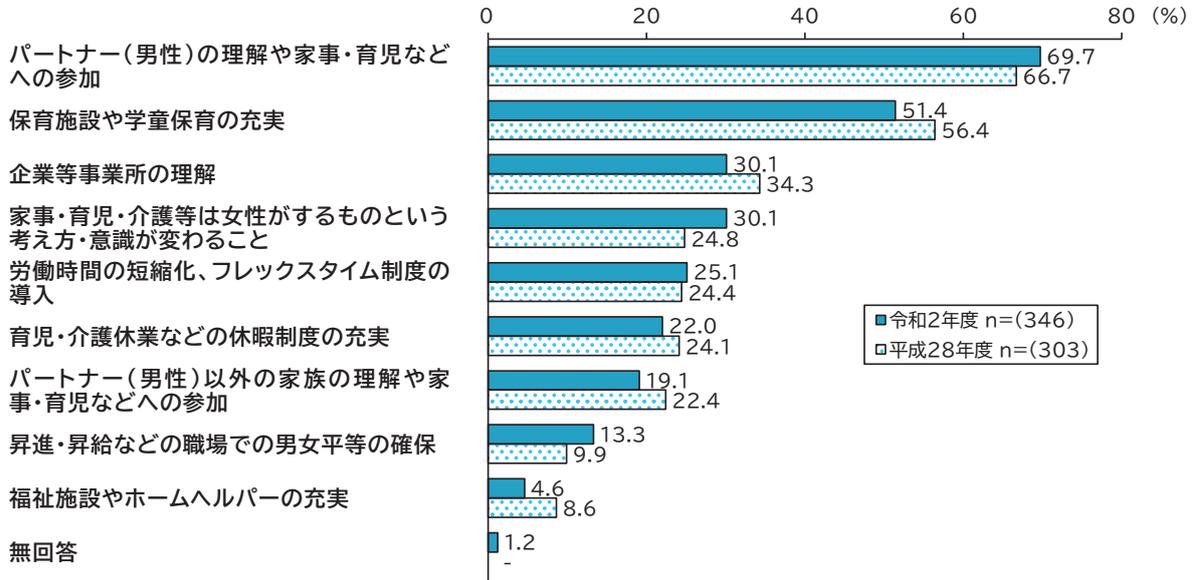
◇一般調査:女性が職業をもつことについてどう考えているか(単数回答)



## ②女性が結婚・出産後も働き続けるために重要なこと

女性が結婚・出産後も働き続けるために重要なことでは、「パートナー(男性)の理解や家事・育児などへの参加」が69.7%で最も高く、以下、「保育施設や学童保育の充実」(51.4%)、「企業等事業所の理解」「家事・育児・介護等は女性がするものという考え方・意識が変わること」(ともに30.1%)となっています。

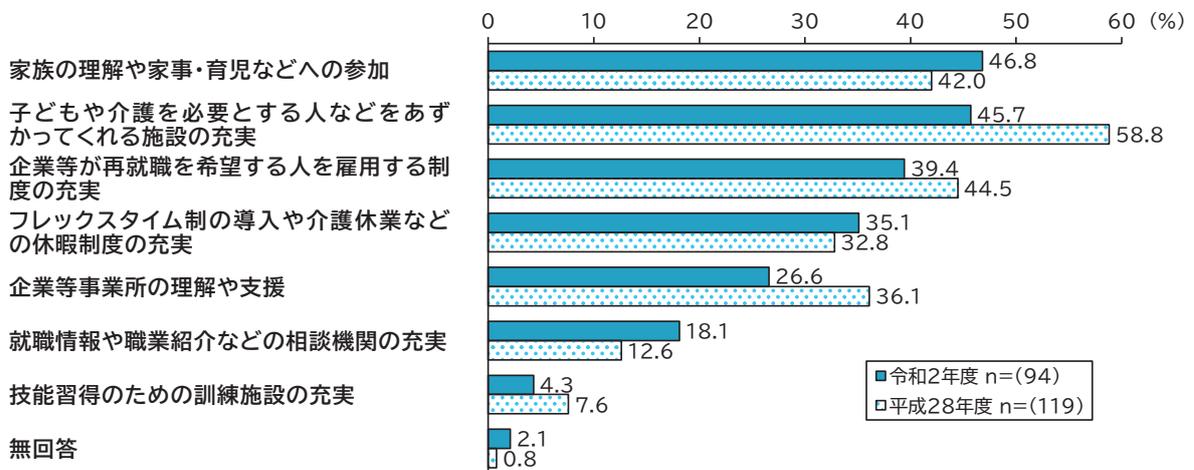
◇一般調査:女性が結婚・出産後も働き続けるためにどのようなことが重要だと思うか(複数回答)



## ③女性が結婚・出産後に再就職するために重要なこと

女性が結婚・出産後に再就職するために重要なことでは、「家族の理解や家事・育児などへの参加」が46.8%で最も高く、以下、「子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実」(45.7%)、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」(39.4%)、「フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実」(35.1%)となっています。

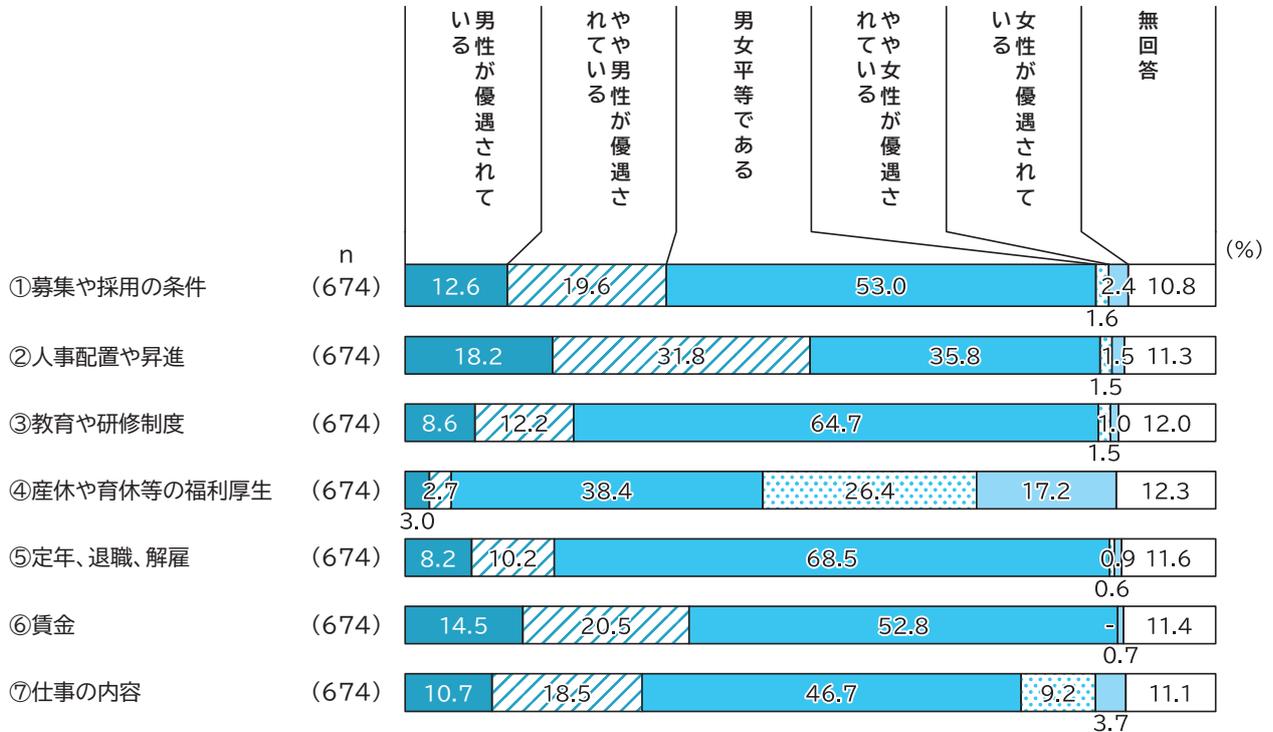
◇一般調査:女性が結婚・出産後に再就職するためにどのようなことが重要だと思うか(複数回答)



#### ④職場での男女平等に対する考え

職場の男女の待遇に関して項目別でみると、「男性が優遇されている」と「やや男性が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、“人事配置や昇進”が50.0%と最も高く、“賃金”で35.0%、“募集や採用の条件”でも32.2%と高くなっています。

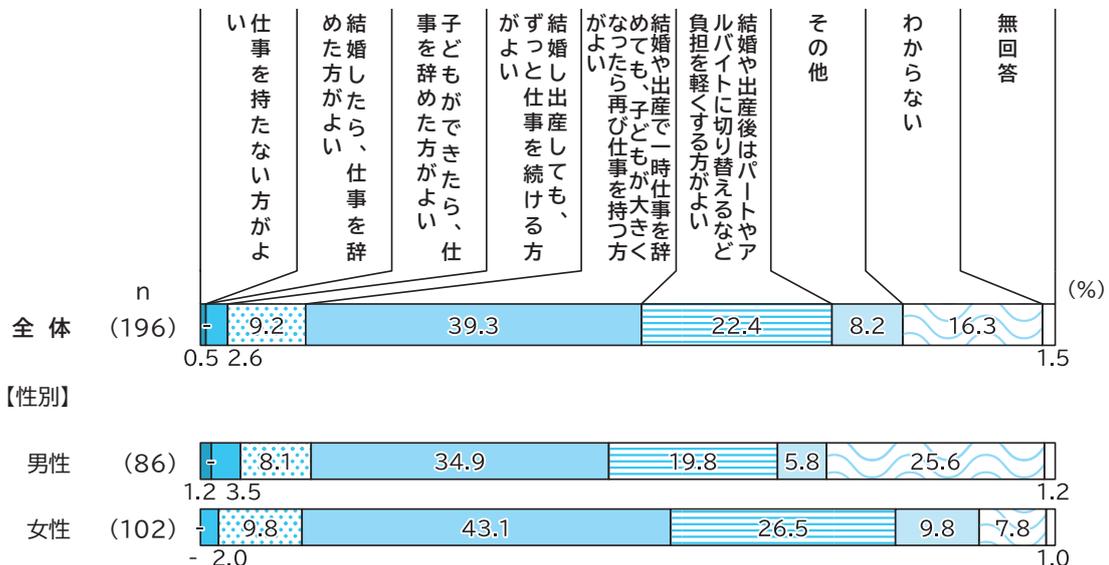
◇一般調査：職場での男女平等になっていると思うか(単数回答)



#### ⑤女性が仕事を持つことについての考え

女性が仕事を持つことについての考えでは、性別でみると女性で「結婚や出産で一時仕事を辞めても、子どもが大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が43.1%、「結婚や出産後はパートやアルバイトに切り替えるなど負担を軽くする方がよい」が26.5%と、ともに男性より高くなっています。

◇中学生調査：女性が仕事を持つことについてどのように考えているか(単数回答)



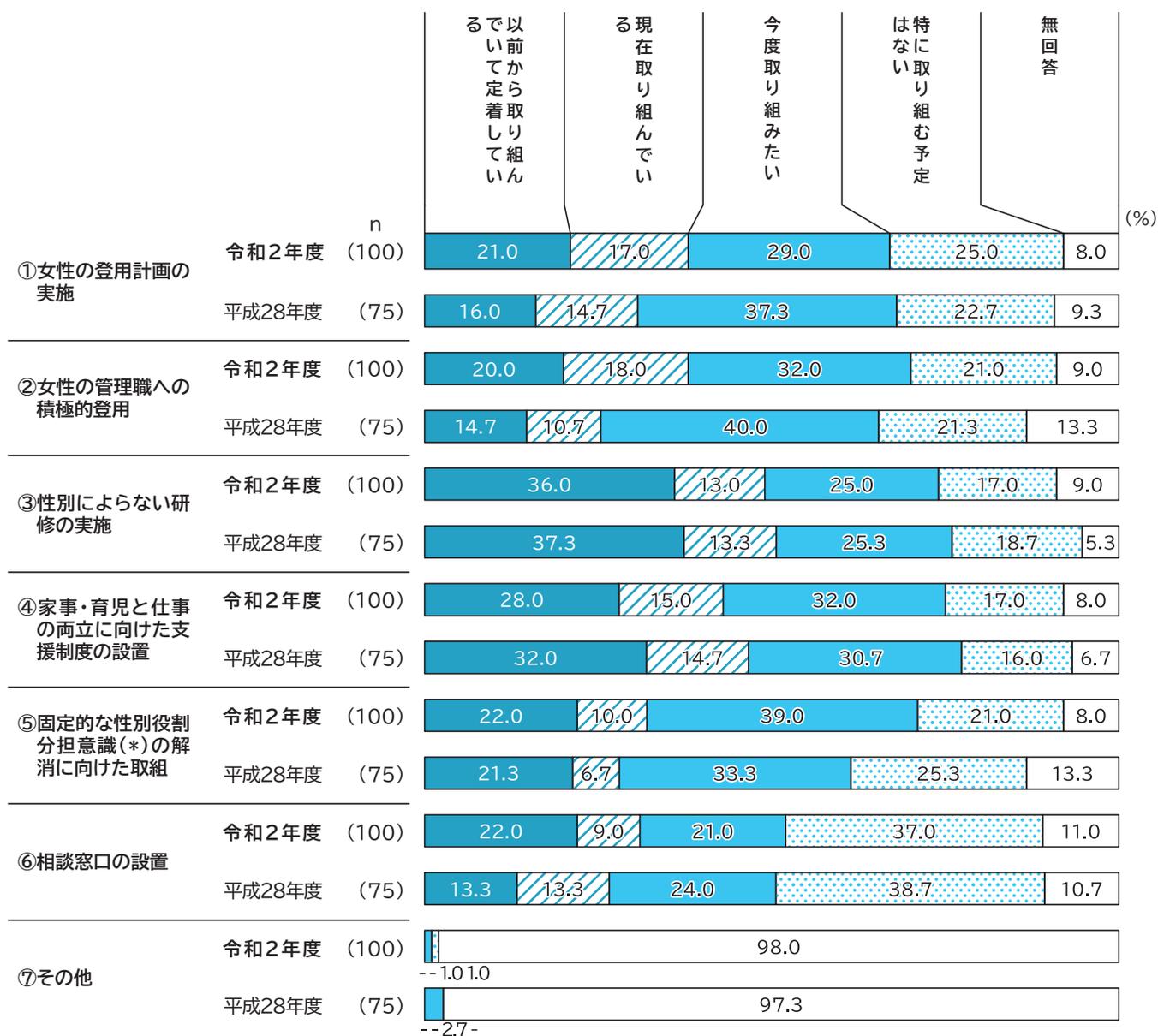
## ⑥ポジティブ・アクション(\*) への取組状況

ポジティブ・アクションへの取組状況で、「以前から取り組んでいて定着している」と「現在取り組んでいる」を合わせた《取り組んでいる》は、“性別によらない研修の実施”が49.0%と高くなっています。

また、「今後取り組みたい」は“固定的な性別役割分担の解消に向けた取組”が39.0%で、「特に取り組む予定はない」は“相談窓口の設置”が37.0%で高くなっています。

前回調査と比較すると、《取り組んでいる》は増加傾向にあり、なかでも“女性の管理職への積極的登用”が25.4%から38.0%の12.6ポイント、“女性の登用計画の実施”が30.7%から38.0%の7.3ポイント、それぞれ増加しています。

◇事業所調査: ポジティブ・アクションへの取組状況について(単数回答)



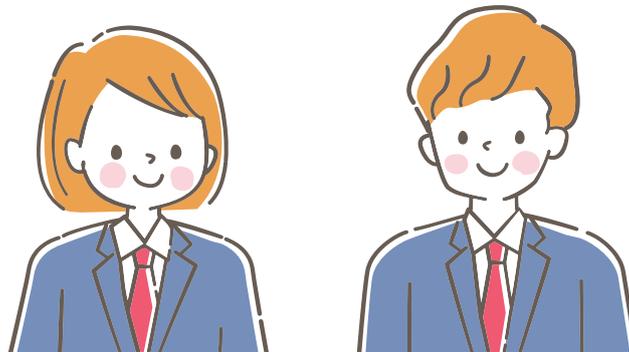
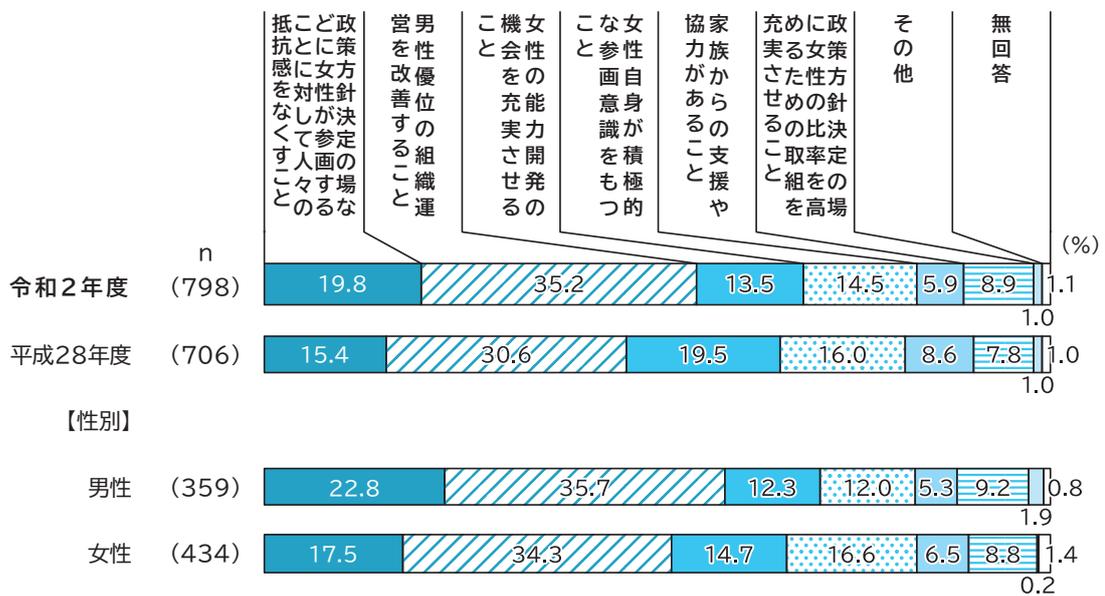
### (3)男女の地域・社会参画について

#### ①政策決定の場への女性参画促進に必要なこと

政策決定の場への女性参画促進に必要なことでは、「男性優位の組織運営を改善すること」が35.2%で最も高く、以下、「政策方針決定の場などに女性が参画することに対して人々の抵抗感をなくすこと」(19.8%)、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」(14.5%)、「女性の能力開発の機会を充実させること」(13.5%)となっています。

性別で見ると、男性で「政策方針決定の場などに女性が参画することに対して人々の抵抗感をなくすこと」が22.8%と、女性(17.5%)より5.3ポイント高くなっています。

◇一般調査:政策決定の場への女性参画促進にどのようなことが必要だと思うか(単数回答)



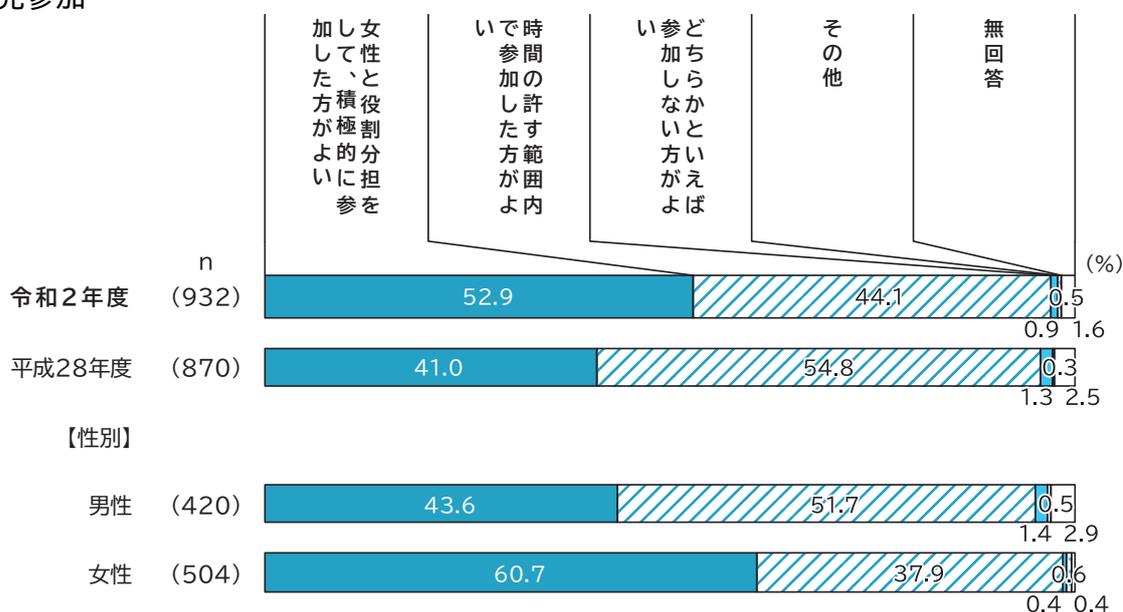
## (4)ワーク・ライフ・バランス(\*) について

### ①育児・介護参加についての考え

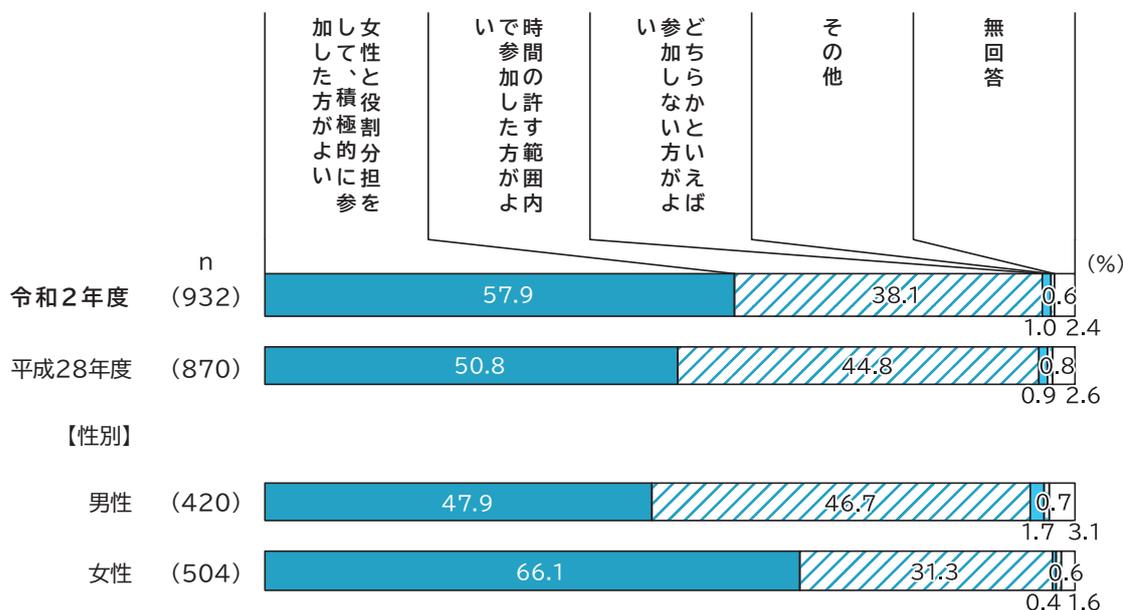
育児・介護参加についての考えについて、育児・介護とも「女性と役割分担をして、積極的に参加した方がよい」がそれぞれ52.9%、57.9%と最も高く、前回調査より10ポイント以上高くなっています。性別で見ると、「女性と役割分担をして、積極的に参加した方がよい」は女性の方が男性より17ポイント高く、一方、「時間の許す範囲内で参加した方がよい」は男性の方が女性より10ポイント以上高くなっており、「育児・介護に積極的に参加する」ことについては、男女間での考えの相違がみられます。

◇一般調査：男性が育児・介護に参加することについてどう思うか(単数回答)

#### ■育児参加



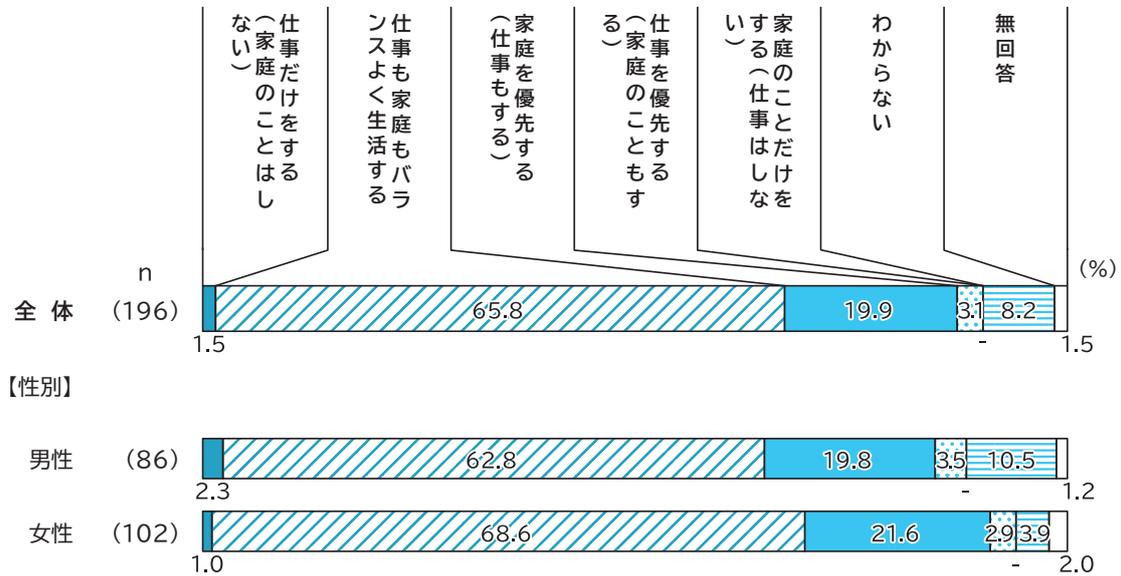
#### ■介護参加



## ②仕事と家庭の両立についての考え

仕事と家庭の両立についての考えでは、「仕事も家庭もバランスよく生活する」が65.8%で最も多く、性別で見ると、女性の方が男性より5.8ポイント高くなっています。

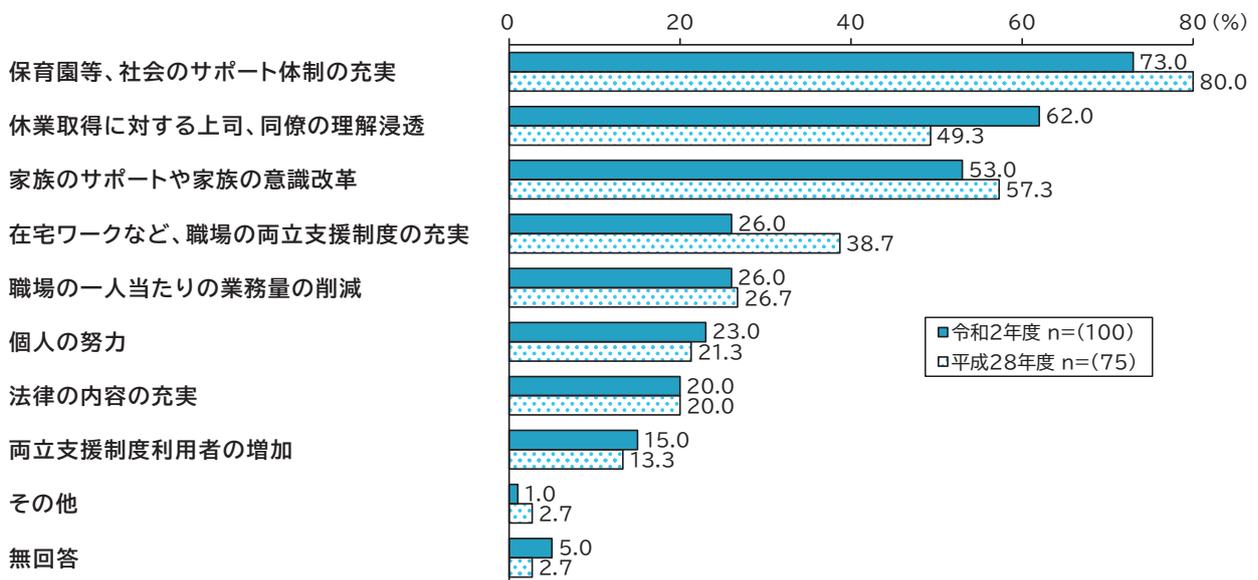
◇中学生調査:これからの仕事と家庭の両立についてどれがよいと思うか(単数回答)



## ③仕事と家庭の両立で重要だと思うこと

仕事と家庭の両立で重要だと思うことでは、「保育園等、社会のサポート体制の充実」や「休業取得に対する上司、同僚の理解浸透」の割合が高くなっており、前回調査と比較すると、「休業取得に対する上司、同僚の理解浸透」は49.3%から62.0%で12.7ポイント増加しています。

◇事業所調査:仕事と家庭の両立で重要だと思うことは何か(複数回答)



## (5)あらゆる暴力防止などを含む人権について

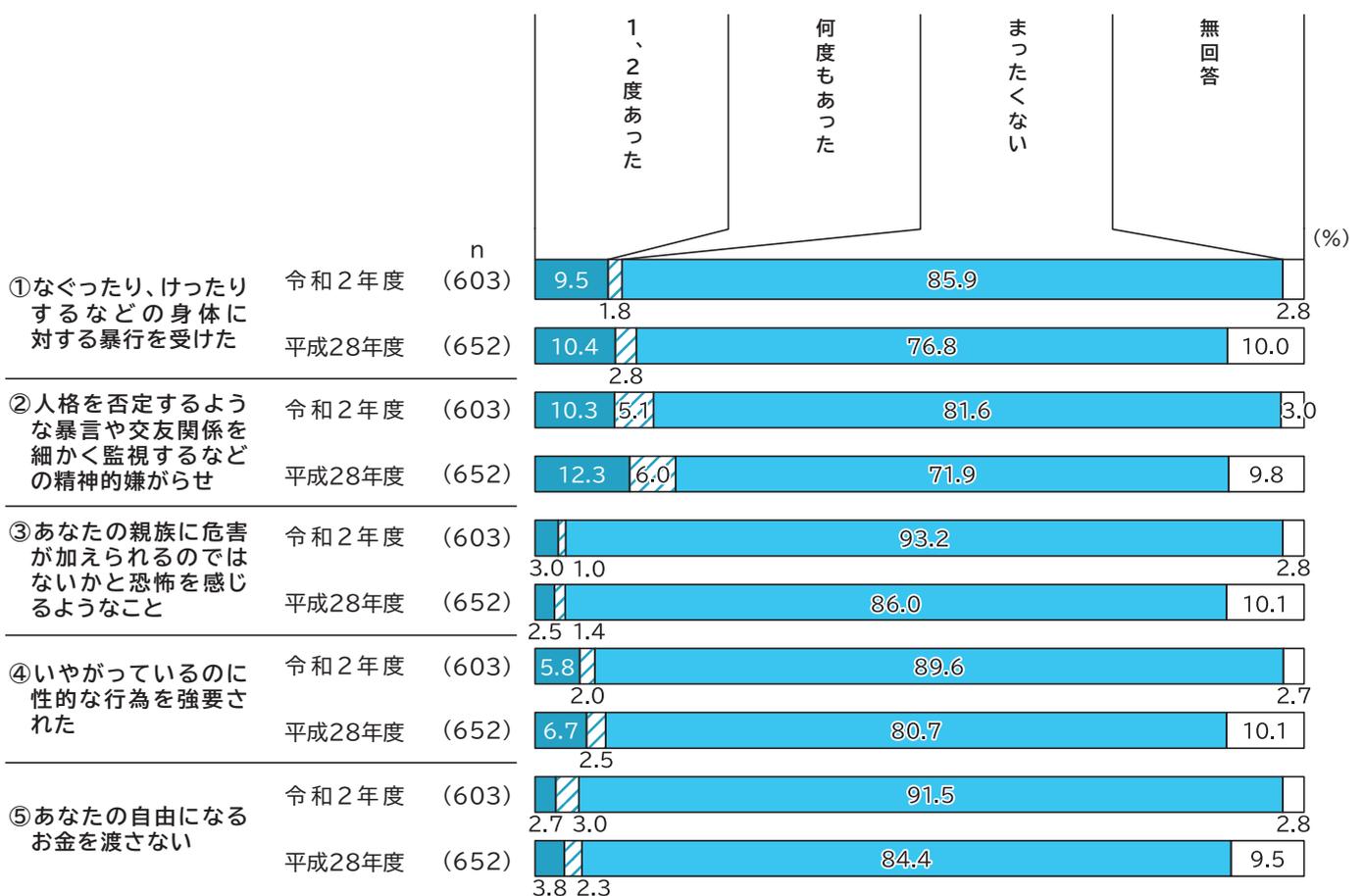
### ①暴力を受けた経験（配偶者がいる方）

前回調査と比較して、どの項目でも、「まったくない」という意見が増加しています。

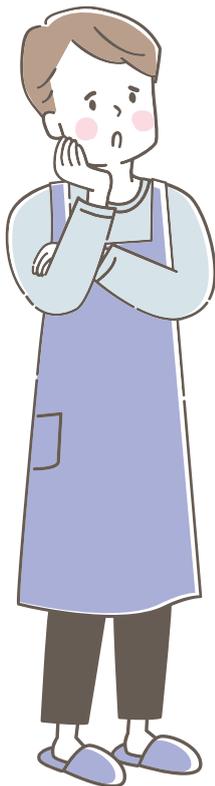
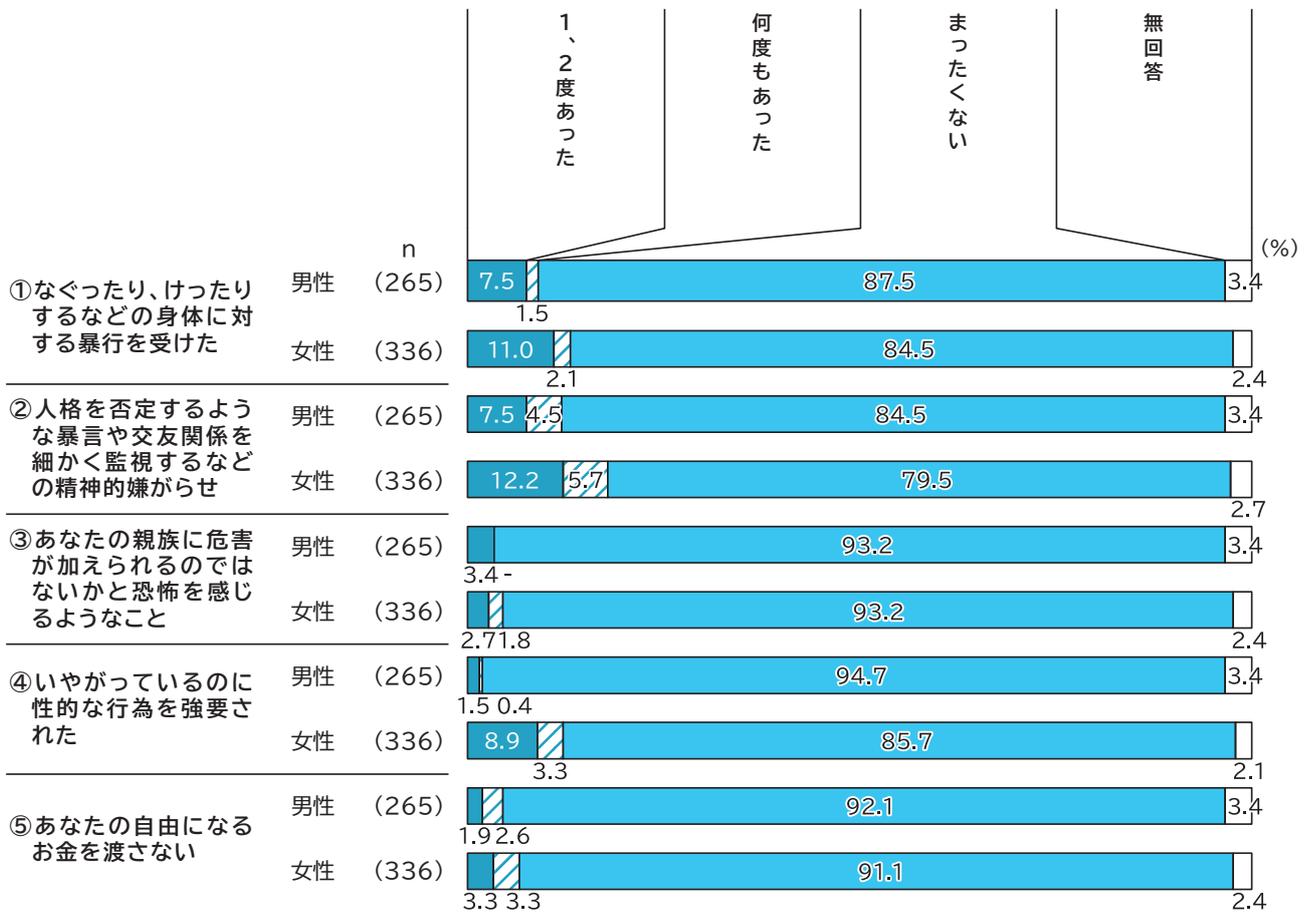
一方、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた《あった》という意見は<人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的嫌がらせ>が15.4%と最も高くなっています。

性別でみるとくいやがっているのに性的な行為を強要された>は女性の方が男性より10ポイント高くなっており、その他の項目でも被害経験は女性が男性より高くなっています。

◇一般調査：配偶者から暴力を受けた経験について／経年(単数回答)



◇一般調査:配偶者から暴力を受けた経験について/性別(単数回答)



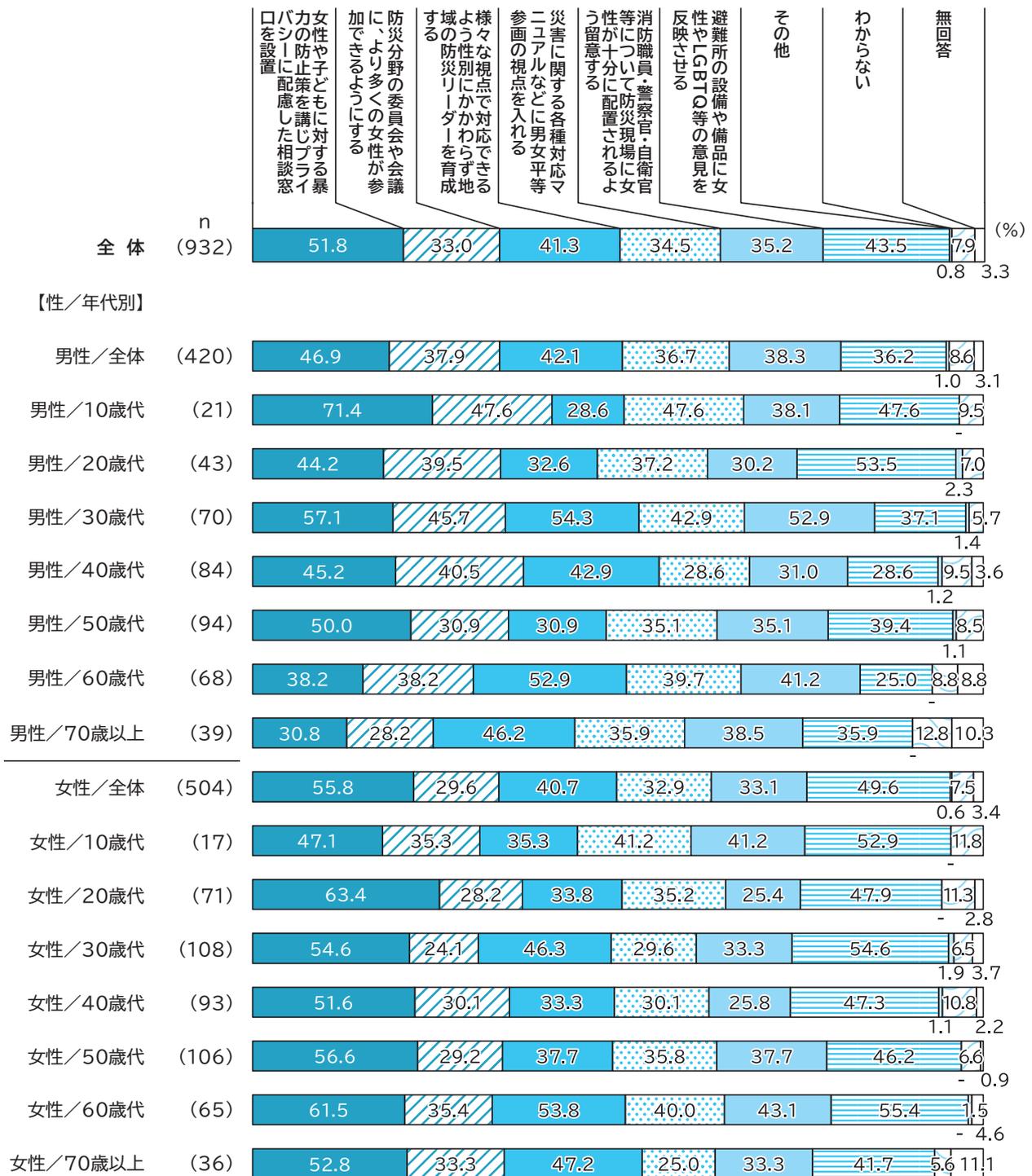
## (6)男女共同参画を推進するための市の取組について

### ①防災対応時に必要だと思うこと

防災対応時に必要だと思うことでは、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じプライバシーに配慮した相談窓口を設置」が51.8%で最も高くなっています。

性・年代別にみると、女性の20歳代で「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じプライバシーに配慮した相談窓口を設置」が63.4%と全年代中最も高くなっており、また、同年代の性別で比較すると、30歳代を除いた年代で、男性より女性の方が高くなっています。

◇一般調査:防災対応としてどのようなことが重要だと思うか(単数回答)

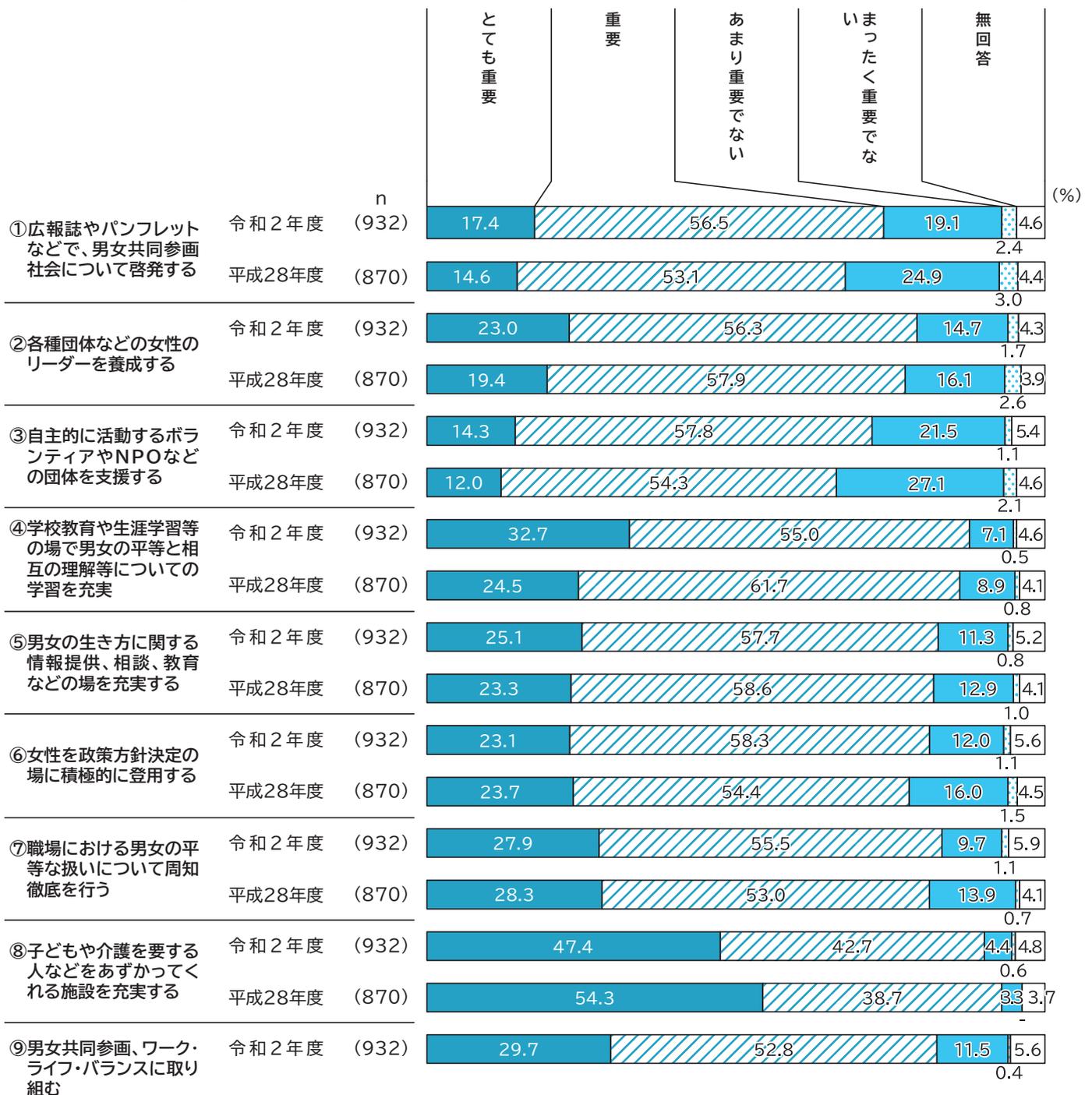


男性、女性ともに10歳代は回答者数が少ないため、参考にとどめます。

## ②市が推進すべき施策

今後、市が力を入れるべきと思うこととしては、“子どもや介護を要する人などをあずかってくれる施設を充実する”で「とても重要である」が 47.4%と他の項目より高く、「重要」(42.7%)と合わせた《重要》では 90.1%を占めています。また、“学校教育や生涯学習等の場で男女の平等と相互の理解等についての学習を充実”でも《重要》は 87.7%と高くなっています。

◇一般調査：市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思うか(単数回答)

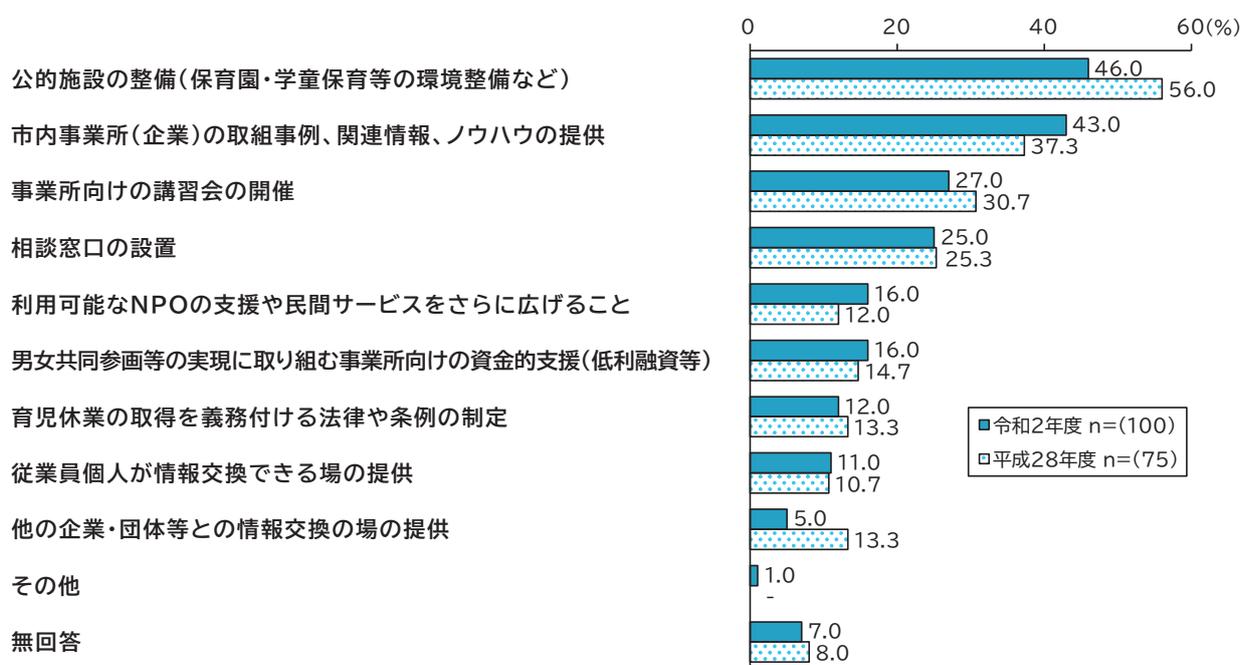


「⑨男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスに取り組む」は、令和2年度だけの質問となっています。

### ③市に期待する取組

市に期待する取組では、「公的施設の整備(保育園・学童保育等の環境整備など)」が46.0%、「市内事業所(企業)の取組事例、関連情報、ノウハウの提供」が43.0%と高くなっています。また、「事業所向けの講習会の開催」は27.0%、「相談窓口の設置」は25.0%となっています。

◇事業所調査:市にどのような取組を期待するか(複数回答)



### ④市への要望(自由記述) ◇事業所調査

市に対する要望として、事業所に対して、「取組事例や関連情報の紹介」、「講習会の開催」に対しての意見がありました。



### 第3節 第3次計画の成果指標

第3次計画の成果指標の達成状況は、施策の方向3と4については目標より大幅に達成しており、施策の方向5については、目標達成とはいかないものの、5年前よりおおむね10ポイント以上向上しています。一方、施策の方向1や2、7については達成状況が伸び悩んでいる状況のため、引き続き、男女平等に向けた総合的な対策が必要です。

施策の方向性	目標とする指標項目	基準年	目標年度	現状
		H27	R3	R2
<b>■基本目標1 人権の尊重と男女共同参画意識づくりの促進</b>				
施策の方向1 男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実	「社会全体において男女の立場が平等」と回答した人の割合 ●	19.5%	40.0%	18.6%
	男女の固定的役割分担意識は解消されていると感じている人の割合 ●	62.2%	75.0%	52.1%
	男女共同参画社会(*) づくり出前講座及び地域座談会の実施回数 ◇	6回	20回	3回
	男女共同参画社会づくり講演会の参加者数 ◆	460名	600名	
施策の方向2 生涯にわたる心身の健康づくりの推進	子宮がん検診の受診率 □	27.9%	50.0%	27.0%
	乳がん検診の受診率 □	30.3%	50.0%	28.0%
施策の方向3 あらゆる暴力の根絶	配偶者等からの暴力(*) を受けた際に相談できる機関を知っている人の割合 ●	—	40.0%	55.5%

- 市民意向調査の回答結果(前年度の実績値)
- ◇ 事業 No.1 の年間の実施回数(実績値)
- ◆ 事業 No.2 の当日参加者数(実績値)
- 該当年度における市の子宮がん検診・乳がん検診の受診率(実績値)

<b>■基本目標2 仕事と家庭の両立支援の推進</b>				
施策の方向4 就労の場における男女共同参画の推進	男女共同参画推進事業者表彰を受けた累計団体数 ◇	8事業者 ／累計	15事業者 ／累計	18事業者 ／累計
	家族経営協定(*) の締結数 ◆	195戸	213戸	220戸
施策の方向5 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス*)の推進	「ワーク・ライフ・バランスという言葉も内容もよく知っている」と回答した人の割合 ●	19.7%	40.0%	30.7%

- ◇ 事業 No.27で、事業開始以降に表彰を受けた団体数の累計
- ◆ 該当年度における市の家族経営協定の締結数(実績値)
- 市民意向調査の回答結果(前年度の実績値)

<b>■基本目標3 あらゆる分野における男女共同参画の推進</b>				
施策の方向6 政策・方針決定の場における男女共同参画の推進	委員会・審議会等の女性委員構成割合 ◇	27.1%	30.0%	28.5%
	市役所の係長相当職以上の女性職員の割合 ◆	市長部局等 7.5%	15.0%	24.0%
		教育委員会 7.4%	14.8%	
施策の方向7 地域における男女共同参画の推進	地域行事などの参加が「夫婦同じ程度」と答えた人の割合 ●	23.7%	40.0%	24.8%

- ◇ 対象とする委員会・審議会等の女性委員構成割合(前年度の実績)
- ◆ 該当年度における市役所の係長相当職以上の女性職員の割合(実績値)
- 市民意向調査の回答結果(前年度の実績値)

